

海外研修報告書(2019年度：2019年9月4日～2020年8月30日)

健康・スポーツ科学科 准教授 村越直子

研修の概要

今回の研修の目的は、ニューヨーク大学ステインハード校音楽・舞台芸術専門学科ダンス教育専攻（NYU ダンス教育専攻）の聴講を行い、ソマティクスをダンス教育に統合する実践について調査・研究することと、ソマティクス実践者マーサ・エディ博士のもとで、ソマティクス領域の研究到達点と課題を探ることであった。ニューヨーク滞在の後半は、コロナウィルスのパンデミック問題やブラック・ライヴズ・マターなど想定外の事態に遭遇した。世界を代表する数々の舞台芸術作品の鑑賞や最先端のダンス・トレーニングを体験することが充分できなかつたことが悔やまれる。

NYU ダンス教育専攻とエディ博士の下で行なつた研究調査は、研修期間後半にオンラインとなり状況は一転したものの、予想していた以上の収穫が得られた。何よりもソマティクスのグローバル・コミュニティーに参加できたことは、今後の研究活動の貴重な資源となると考えている。

研修期間の後半7月～8月は、カナダ・トロントで、Kaeja'd Dance が主宰しているコミュニティ・ダンス企画「Porch View Dances」の参与観察を行い、ソマティクスを土台にしたカナダのダンス教育/実践を調査する予定でいた。しかしながら、彼らの活動日程の変更があり、当初の計画とは異なる時期にトロントを訪問して研究討議を行うこととなった。更にパンデミックの影響を受け、3月以降はオンラインでのミーティングを数回にわたり行った。結局、最後までカナダへの入国制限が解除されなかつたため、「Porch View Dances」はライブストリームで鑑賞することになった。期待していた成果が得られたとは言い難いが、共同企画や連携について意見交換を行った。今後、具体的内容を検討していきたい。

ニューヨーク大学（NYU）ステインハード校における研修

2019年9月より、主にNYU ダンス教育専攻の修士課程一年生の専門科目を聴講した。秋学期（9月～12月）では、「モダン・ダンス」「ダンス教育の理論と哲学」「創作ダンス」「自由な構造（即興）」「ラバン動作分析とバーテニエフ・ファンダメンタルズ」「ダンス専門家のための講義Ⅰ」の授業を受け、院生たちとの議論に参加した。春学期（2月～5月）では、「ジャズ・ダンス」「高等教育と芸術におけるダンス・アドミニストレーションとリーダーシップ」「Kaleidoscope DancersⅡ（ダンス教育実践グループの実践編）」「ダンス専門家のための講義Ⅱ」、夏学期（6月～8月）には「ダンス論ゼミナール」を聴講した。NYU ダンス教育専攻のカリキュラムは、ABT（アメリカン・バレエ・シアター）コース、K-12（幼稚園から高校3年までの学校教育）コース、ダンス専門家コースの三つに分かれている。私が聴講した授業はこの三つのコースの受講生全員に開かれたものであり、学生同士の議論や研究発表などにコースごと、それぞれの視点が明確に示されていた。それぞれの

コースの独自性を共有しつつ学ぶ環境に、この国のダンス教育の裾野の広さを実感した。

NYU ダンス教育専攻は、NDEO（全米ダンス教育機構）の構成メンバーを多く輩出しており、全米のダンス教育の中核を担っている。毎年10月に行われるNDEO 研究大会では卒業生である教師たち、実践者たちが集まり意見交換と教育研究を深めている。また大学の授業において、しばしばNYU ダンス教育専攻の卒業生が講師となり、現場での実践を院生に紹介していた。どの講師も創造性と独自性を持ちながら、一貫したダンス教育の思想を貫いている。その思想は、全ての授業において一貫した、ダンス・フォー・エブリワンであり、文化の違い、人種やジェンダー、年代を区別せずに一人の人間の創造性と個性を活かすダンスである。そこに米国独自の文化的・歴史的・社会的背景が大きく影響しており、特に否定できない黒人文化との絡みについては多くの時間を割いて議論がなされた。

NYU ダンス教育専攻のディレクター、デボラ・ダマスト教授は、Kaleidoscope Dancers (KD) というダンス教育プログラムチームを構成し、院生に実践の場を開いている。ニューヨーク近隣で教鞭を執る卒業生たちは、教師として自分の生徒たちを連れて院生の研究授業に参加し、交流する。今年度はパンデミックの影響で途中からオンラインで実施された。ここでもダマスト教授と、教え子である学校教師らとの信頼関係によって、オンライン上での交流授業が瞬時に実現した。時間をかけて構築されてきたダンス教育コミュニティが、非常事態でも揺るがない成果を生んでいるのがわかった。そしてこの機会を生かし、ダマスト教授は将来を見据え、オンライン授業の効果や課題に意識的になるよう、院生たちの学びを広げていた。今年夏に、ダマスト教授はベスト・ダンス・ティーチャーズ賞（高等教育部門）を受賞している。彼女の実践を間近で見聞出来たことは、ダンス教育者として意味のある、貴重な経験となった。

「ダンス教育の理論と思想」、「ダンス専門家のための講義」「ジャズ・ダンス」を担当したパトリア・コーヘン教授は、長くニューヨークの舞台上で活躍したダンサーである。特に「ジャズ・ダンス」の授業は米国のダンスがどのように形成されてきたのかを知る貴重なものであった。米国の黒人への人種差別に対する問題をダンス教育の場でも、真剣な問題として取り上げていた。黒人、白人、アジア人が混じり合っ意見交換しながら進化した授業は非常に刺激的であり、ダンス教育の核心的な思想はこのような境界を超えた対話から生み出される必要があると感じた。さらに今年5月のブラック・ライブズ・マター運動が勃発した際には、この授業の重さを痛感した。「ダンス機関の運営とリーダーシップ」「ダンス論ゼミナール」を担当したスーザン・コフ博士からは、ダンス専門家/教育者としてのノウ・ハウを具体的に学ぶことができた。米国ポストモダンアートの歴史に深く刻まれるジャドソン教会で活動したダグラス・ダンから直接ダンス即興について学び、パフォーマンスに共演できたことは思いがけない経験となった。

2020年3月11日からNYUは全ての授業がオンラインになった。カナダへの入国ができなかったため、代わりにNYUの夏学期を聴講した。しかし、その状況は8月に帰国するまで続き、最後までNYUキャンパスには入構できない状態で研修が終わった。

Martha Eddy：ソマティクス実践の研修

1. BodyMind Dancing

ニューヨーク滞在中のもう一つの研修先、ダイナミック・エンボディメントでは、主宰するエディ博士の「ボディマインド・ダンシング」のクラスに9月から継続的に参加し、その教師資格認定を目指した。この最終試験は滞在中に対面で実施される予定だったが、コロナの影響で延期となり、今後 Zoom で認定を受けることになっている。滞在期間後半の5月、6月には、オンラインの教師養成コースの一部で指導をすることができた。受講者たちは、学校や大学教員、心理カウンセラー、ダンサーなど実践現場が多岐にわたる。そのため、地球規模のソマティック・コミュニティーに参加することができた。そして、活動家でもあるエディ博士のソマティクス領域における位置づけも、以前に比べて明確になった。

2. Mindful Movement

私はエディ博士の著書「Mindful Movement」の翻訳が許可されている。オンラインに移行してからもエディ博士の実践に参加し、多くのクラスを受講しながら翻訳ができたことは有益であった。エディ博士には、今後翻訳本の出版まで、協力的に打ち合わせに参加・協力をいただく了承を得て、現在も共に作業を進めている。

Kaeja'd Dance におけるカナダでの研修

1. Lifetime Achievement Award Performance

カナダでの研修受け入れ先 Kaeja'd Dance を主宰する、アレン・ケイジャとカレン・ケイジャはトロント・アート・カウンシルから、「Lifetime Achievement Award」が授与され、その記念公演が2020年1月26日に開催された。そこにゲストで出演した。

2. Porch View Dance

この企画は従来、街全体を取り込んで行われ、人々がダンスを通じてコミュニティー内のつながりを実感し、再構築する可能性を持つものである。今回はオンラインのライブストリームで7月30日に開催された。そこでは全く違った形の「つながり」を見ることができた。今後どのようにこの可能性を含み込み発展していくのかをみていきたい。Kaeja'd Dance での研修は、彼らの日程変更やパンデミックの影響で予定していた成果は上げることができなかったが、彼らが出版したダンス教育の著書の翻訳を許可されたため、引き続きこの関係を保ちながら、カナダのソマティクスとダンス教育の関連についても調査していきたい。

その他

1. IADMS：国際ダンス医科学学会への参加、研究出張

2020年10月24日～27日にカナダのモントリオールで開催された「国際ダンス医科学学会」に参加した。

2. ダンス公演への参加

ニューヨーク滞在中に三つのパフォーマンスと、一つのビデオ収録に出演した。

・「Global Water Dance」2020年9月21日 Riverside Park

エディ博士の実践の一つ。ソマティック・コミュニティで企画され世界各国で同時多発的な野外パフォーマンスに出演した。

・「One World Suite」2020年9月27日 ワシントン・スクエア・パーク

このコンサートは、NYU ステインハード校音楽・舞台芸術専門学科長であり、ブルーノート・ジャズ・バーで長年演奏を続けてきたデイヴ・シュローダーの企画である。9月にNYU教員の有志のジャズ・アンサンブル「Combo Nuvo」の生演奏パフォーマンスが、国連の国際平和デーにちなんでワシントン・スクエアの野外特設ステージで開催された。ダマスト教授とともに出演することができた。

・「Florence to New York Project 2019」2020年12月8日 Frederick Loewe Theatre

NYUのエスター・ラムネック教授と、イタリアのルイジ・チェルビーニ音楽院音楽監督であるアルフォンソ・ベルフィオーレ教授との25年間の共同制作を記念した公演が開催された。ベルフィオーレ教授の楽曲「La Città Sommersa」にダグラス・ダンが振付した作品に、院生らと賛助出演した。

3. Laban Institute of Movement Studies(LIMS)

ニューヨーク滞在が延長する事態となったため、その期間を活用し、国際的な動作分析の資格（CMA）を認定しているLIMSの短期集中型コースを6月・7月に受講することにした。この資格がソマティクス研究を進めていく上で非常に役立つことを、NYUの授業で実感し、短期集中型でCMA取得を目指すことにした。しかし、パンデミックの影響を受けLIMSでの学修も予定どおりに進まず、帰国後もコースを継続することになった。

今後の展望

一年間の海外研修から、①ニューヨーク大学のダンス教育プログラムについて、②マーサ・エディ博士のソマティック実践についての論文をまとめたい。また、NYUのダマスト教授、コーヘン教授、コフ教授らとの交流を生かし、ダンス教育の素晴らしい源泉であるNYUダンス教育専攻との交流を継続し、その知見を学生らに還元していきたい。

この研修期間は、自分自身の教育実践と研究との重なりや両立、そしてその社会的な意味を強く意識する機会となった。2020年2月後半から、コロナウィルス感染症、人種差別に対する運動、大統領選挙に関する報道に向き合うことになった。それらに対する大学の対応などを通じ、アメリカという国の現実を目の当たりにした。オンラインによる情報共有や研究・教育実践が一般化するという急激な変化において、ソマティック領域の中心となる「身体性」へのアプローチが非常に重要なテーマとなることを意識させられた。これらについての新たな問いと課題に本学の学生たちと共に取り組んでいきたい。